

閉会挨拶

公益財団法人日本海事センター理事長の平垣内でございます。

先ずは、今回のフォーラムを開催するにあたって、長崎県、長崎市、九州運輸局、地元の企業のみなさまをはじめとして、多くの関係者の方々にご協力頂き、また、多くの方々のご参加を頂き無事開催ができましたことに対し厚く御礼申し上げます。なんといっても海に関する長い歴史と係わりを持つここ長崎で開催できました事は、当財団と致しましても光栄であり、大変嬉しく思っております。

そして、ご来賓の皆様、大島造船所の竹山副社長には大変ご多用の中ご挨拶やご講演をいただきました。また、大変お忙しい中をパネルディスカッションご登壇いただいた皆様誠に有難うございました。

さらに、長時間にわたり今回の海事立国セミナーにご参加いただいた大勢の参加者及び視聴者の皆様に心より御礼を申し上げます。

さて、今回のフォーラムでは、洋上風力のお話がひとつのアジェンダでした。個人的な話になりますが、役人時代に再エネ利用推進法を担当する内閣府の総合海洋政策推進事務局長として、始まったばかり洋上風力の担当をしておりました。

昨今洋上風力には、逆風が吹いている中で、ここ長崎において、洋上風力が海事クラスター全体で熱心に取り組まれていることに大変勇気付けられました。

また、昨今新内閣の重点 17 分野には、うち造船、海洋、港湾ロジスティクスの3つが海関係で挙げられております。考えてみれば、海に囲

まれた日本で、ほとんどの輸出入が海からである事を考えれば当たり前の事ですが、海事クラスター全体にとって大変素晴らしいことで、大きなチャンスでもあります。

海の分野は伝統があるだけに、従来ともすれば、造船、海運、港湾とそれぞれに施策が講じられておりましたが、これを海事クラスター全体で考えるという事が、数年前に本格化しております。

例えば造船業の再興には、勿論新技術の導入などによるイノベーションも重要ですが、一方で地道な製造現場の確保も大変重要です。本日の大島造船の副社長さんのお話を伺いますと、造船業の再興には、地域における人材確保などのため地域振興と密接不可分であり、海事クラスターという範囲では、未だ不十分であると改めて感じました。

最後になりますが、限られた時間の中でしたが、今回のフォーラムが長崎の今後の発展に向けた取組推進の一助になれば幸いです。

本日は、最後までご参加・ご視聴いただき、誠にありがとうございました。